

## 編集室から

北アルプスの山々からの水は、何本もの大河となって富山県各地を下り、日本海・富山湾に注いでいます。その一つに落差350mで日本一を誇る称名滝があります。以前から、行きたいと思いつつも中々足を運べなかったのですが、最近ご縁を頂いた富山県在住の方からお誘いを頂いたので、行って参りました。

向かった日は嵐が過ぎた翌日の雨模様。そのため水量が多く、物凄い迫力がありました。滝は350mを4段に分かれて落ちてくるのですが、最後の滝壺からのしぶきと風が強烈で、まるで台風そのものようでした。

少し滞在するだけで、全身ずぶぬれ。持参した傘は役に立たず、濡れるに任せるしかありませんでした。

これくらいの大きな滝になると修験者といえども決して入ることはできないと思いますが、滝壺からの風としぶきを浴びることで、その代わりとなるような気がしました。



写真は、富山県による称名滝の観光情報ページのもので、写真のように虹がみられたら幸運なのだそうですよ。

富山から北アルプスを経て長野県大町側へ抜ける有名な立山黒部アルペンルートの富山県側の入り口となる立山駅から車で約13分の称名平に駐車場があります。そこから徒歩25分です。

みなさまも、心身ともに涼みに行かれてはいかがでしょうか？（は）

称名滝スポット情報

<https://www.info-toyama.com/spot/31003/>



のと  
だらぼち

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川畠さんが「能登だらぼち」を引き受けて改装開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

のと だらぼち  
03-5537-3078  
17:00～23:00 日曜祝休

中央区銀座8-4-27  
プラーザ銀座ビル地下1階  
(銀座外堀通りasics前)

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2018/08  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167  
石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217  
Fax 076-233-7375  
Email [usric@neting.or.jp](mailto:usric@neting.or.jp)

2018/08  
(株)アスリック  
<http://www.neting.or.jp/usric>

## 景 月



讃岐：金比羅さんにて  
by hama

この度の豪雨で  
被災された皆様  
に心よりお見舞  
い申し上げます

前回は、腸内細菌が大腸で食物繊維を分解して短鎖脂肪酸を作ること、そして作られた短鎖脂肪酸の一部が体内に吸収されヒトの細胞に様々な情報を伝える働きをしていることの話でした。生命科学の分野で今一番のトピックスは、生体内の情報ネットワークです。昨年、NHKスペシャルで「人体」という番組が七回シリーズで放映されました。iPS細胞研究所の山中伸弥所長とタモリが司会をしていたので、観られた方も多いでしょう。ヒトは、六十兆という膨大な数の細胞で出来ています。一つ一つの生命体として維持するため生体内には情報ネットワークが存在しているわけですが、NHKらしく贅沢にCGを使って最新の研究成果を判りやすく解説していました。手短かに、概要をまとめてみます。これまで、情報ネットワークの主役はホルモンで特別な臓器で作られ全身に作用すると考えられていました。例えば性ホルモンは生殖器で作られ外性器や骨や筋肉などに作用し、闘うホルモンのアドレナリンは主に副腎から分泌され脈拍と血圧から排尿や消化管運動まで調節します。ところが科学の進歩により、ホルモンは心臓・腎臓・脂肪・胃・肝臓・血管…など身体中あらゆる部位から分泌され、作用の仕方も多種多様だと判ってきたのです。さらに神経も、皮膚の情報も脳へ脳の司令を筋肉へと伝えるだけの存在から、いまや肝臓・腸管などの内臓と脳を結び超高速ネットワークと認識されています。さらに一酸化窒素(NO)といったガスが強力な血管拡張物質であったり、癌細胞が転移するために特殊な物質を細胞膜に包んで放出していたり、と驚くべき話が満載でした。

こうした芸術的とも言える巧妙で緻密な生体内

## 濱のつばやき 『平成の夏』

この夏は、平成最後の夏となる。初夏といえば、さわやかな印象があるが、今年のそれはとても平静とは言いがたい日が続く。九州から四国・中国地方の西日本を襲った豪雨災害には、「平成三十年七月豪雨」と不名誉な名前がついた。西日本が付かなかつたのは、その前に北海道も被災していたからで、全国に広く災害をもたらす天候となった。

幼少の頃、梅雨といえば、しとしとと降り続く雨だった記憶がある。しかも、連日で晴れ間はほとんど無かった気がする。だからこそ、梅雨明け・初夏は清しく感じられたのだろう。

豪雨災害が明けて、被災地では懸命な復旧・復興活動に入るや、今度は強烈な猛暑とまさかの台風逆走。普段少雨である瀬戸内地域は、植生も地域開発も集中豪雨には脆弱なのではないかと推察される。

一ヶ月間にもあまりにも度重なる異常気象。温帯であるはずのこの国が、いつの間にか熱帯になったか

の情報ネットワークに、腸内に居るとはいえ全く別の生命体でしかも原始的な細菌とかが絡んでいるとは、もっとすごい驚きかもしれません。逆にいえば、腸内細菌と人類がいかに長く深く共存してきたかの証でもあるのでしょう。でも善玉菌とヒトはインギンチャクとクマノミのような共生関係なのかもしれません。悪玉菌はヒトにとって一体いかなる存在なのでしょう。また腸内細菌の多様性を考えれば、ヒトに影響を及ぼすのは短鎖脂肪酸だけでないことも確実だと思われまふ。今後どんな新事実が明らかにされるのか、楽しみに待つことにしましょう。

さて気がつけば、腸内細菌の話をや々と半年も続けてきてしまいました。まだまだ何も判っていない底知れない領域であると、納得していただけたでしょうか。炭水化物(糖質)の話も切り上げる事にします。

私が大切だと思っているのは、以下の点です。

炭水化物は単純糖質・複合糖質・食物繊維の3つに分類できる

単純糖質(ブドウ糖・果糖・ショ糖)は甘みがあり吸収が早い

複合糖質は食感が良く副食を引き立て、比較的容易に消化されブドウ糖として吸収される

ブドウ糖とアミノ酸(蛋白質の構成成分)と脂肪酸(脂質の構成成分)は相互に変換される

食物繊維は大腸まで分解されず、腸内細菌により短鎖脂肪酸になって生体に作用する

食物繊維を多く摂れば善玉菌を介して健康に良いことがある(?)



【プロフィール】  
(いがき としお) 金沢大学北濃寮で、濱さんの二年後輩でした。濱さんは、とつても怖かった…。卒業後は金沢を離れ、現在は温暖な讃岐高松でヌクヌクしています。

のような異変ではないか。逆走台風による異常な高温は、各地で熱中症での事故を増加させている。穏やかだった気候は、激甚になった。

一方で、危険なあおり運転が横行し、ついには死亡者まで出ている。あおつた側は殺人罪が適用されるとの報だが、これは当然としても、何かがおかしくなっている気がしてならない。

穏やかだったこの国の気象だけでなく、この国の民の気性も激しくなっているのではないか。だとすると、その根底に横たわっている変化の原因は、いったい何であるのか…。

改元まで一年を切つた平成という時代。新しい年号がどのように決められるのか興味深い。「外、平けく。内、成る」という意味が込められているこの元号。残りわずかなこれからの期間だけでも平静にあつて欲しい。そして益々激動化すると思われる次の時代も、人々の暮らしは穏やかであつてほしいと願うばかりである。

現代の天気予報は高い確率で“当たる”。かなり前から特定の場所、日時の天気の数値情報を伴って提供される。天気予報を活用したビジネス展開や、イベントやレジャーの計画、災害への備え等が、10数年前と比べても格段にやりやすくなっている。それらを支える基盤として、気象衛星およびコンピュータの性能の飛躍的向上、気象予報士の新設と増加、利用者端末としてのスマホ等の普及などがあげられよう。

提供される情報としては、天気、気温、降水確率、風速、波の高さ等を基本に、季節によっては花粉、黄砂、PM2.5、紫外線、降雪量など。それらに加え、台風情報に降水量、高潮、雷に関する情報のほか、特別警報・警報・注意報および土砂災害警戒情報、竜巻注意情報、高温注意情報などが、異常気象時に提供されている。

これらのラインナップは今では普通になりつつあるが、ここ数年で新たに加わった概念や情報もある。人々が何かを判断し行動する際に活用できる材料は、以前よりも多くかつ具体的になっている。そしてよく“当たる”。

一方で、微に入り細を穿ち過ぎると、詳細な天気予報は複雑で難解な天気予報となる。元となる情報の多さや、提供される情報の多さは、必ずしも受け手側の理解度を高めることや何らかの判断・行動へとつながらない。提供者側にはわかりやすい情報提供が、利用者側には情報活用能力がそれぞれ問われている。

また、“当たる”予報は、逆説的な言い方だが提供者側の言い訳をどんどん追い詰める方向へと働く。従来は突発的な天気の変化や異常気象に直面した時に、避けられない災害として社会が許容せざるを得なかった範囲を狭めている。

さらには手のひらのスマホで、現在地の最新の天気予報を誰もが瞬時に知ることができる時代である。情報伝達手段の多様化と、スマホを使った情報のリアルタイム化およびプッシュ通知による必達化は、情報の出し手と受け手のそれぞれに変革を迫っている。

気象庁、自治体、企業、専門家、一般市民のそれぞれにおいて、気象リテラシーを高めていくことが求められよう。様々な場面にて、先入観にとらわれないこと、思考停止に陥らないこと、想像力を豊かにすることがますます求められているのではなからうか。

前回「スポーツ選手のコメント力」について書いた流れで、その後気になった記事がありました。正に僕自身が感じていた違和感と同じものでした。今回は高校野球に感じる違和感『何故高校球児は丸刈りなのか?』について考えたいと思います。

東北楽天のエース岸投手が1500奪三振を記録した際に寄せたコメントで気になるものがありました。

『高校では丸刈りにしなくてもいいと言われたので野球部に入りました』

丸刈りを強要されたら、あのような大投手が生まれなかったということです。その逆に、丸刈りが嫌で高校野球を断念した可能性を持つ選手もいたと思います。そんな丸刈りくらいでと言う方もいらっしゃるかもしれませんが、思春期の高校生にとってオシャレをしたい、女の子にもてたいというのは正常な感覚です。岸投手だって自宅に近いからという理由で決して強豪校ではない学校を選び、丸刈りにしなくてもいいならという理由で野球部に入る。至って普通の高校生の感覚です。高校球児=丸刈りといういわば強制感すら感じる社会的通念のほうがおかしいと思いませんか? 指示命令型の色が強い高校野球にとっては、個性は必要なく皆が同じ恰好やスタイルであることが重要なのかもしれません。軍隊を思わせませう。

あとこのような酷暑が続く今の夏において外で野球を高校生にさせることが本当に大切なのでしょうか? 高野連含め常軌を逸してませんか? 高野連は常軌を逸してませんか?

サッカーの名門校流通経済柏の本田監督「わからないのは『打つな』っていうサインがあることだね。私はサッカーでは攻撃は何でもありだよって教えてる。だから、うちの野球部の監督に冗談で『サッカーには行くなっていうサインはないよ』って言ったの。笑ってたね」

ラグビーの名門東福岡の藤田監督「高校野球って、なんで丸刈りなんですか? うち丸刈り禁止です。髪を切ったら頭を守れないじゃないですか。昔は高校ラグビーでも丸刈りにしている高校がけっこうありましたけど、今はもうほとんど見かけない。高校野球だと、髪を伸ばしていることが悪みみたいな印象がありますもんね。負けたら、髪なんか伸ばしているからだって言われそう。大変ですね.....」

野球が悪くて、サッカー・ラグビーが良いという話ではなくサッカーやラグビーは競技時間が決まっているタイムスポーツであり、攻守が目まぐるしく動くスポーツです。競技中に監督・コーチが介在する隙がないという性格もあり、結果それが選手個人が判断をしなければならぬという機会をつくっています。またそれと同時にこれらの競技は日本より強い国がたくさん存在し、強くなるためにはそれらの国から学ぶ必要があります。強くなるには監督、コーチも世界基準という視点が求められるため、そこに日本の社会通念なんてものは入り込めません。野球は日本の国技と言っても過言ではなく、かつアメリカと日本が世界をリードしているのが野球というスポーツです。歴史も長いので、偉そうにし老害ともいふべきOBによる『高校野球はこうあるべき』押し付けが一番の問題でしょう。。。

今年は6月末に梅雨明けその後の大半が30度超えが続く東京です。この暑い中高校球児は炎天下で白球を追いかけけております。球児達に事故がなく無事に家族のもとに帰れることを祈るばかりです。

## 『富士の国から ~大魔神のたび~』平成30年4月4日

静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

豊門公園の開園式での町長の挨拶は

\*\*\*豊門公園は、今から92年前の大正15年に、ここ小山町の近代化の礎を築いた富士紡績株が、従業員の教育や地域住民の方に休養の場を提供することを目的に、会館や宿舎、庭園などを整備したのが始まりです。

その前年の大正14年に、初代社長の和田豊治の遺志により、遺族から寄贈された東京向島にあった邸宅をここ小山町に移築し、庭園を造り、「豊門会館」として翌年5月16日に盛大な開館式が執り行われていました。

豊門」という名称は、和田豊治の「豊」と、富士紡の三門と称せられた3人の偉人である森村市左衛門・日比谷平左衛門・浜口吉右衛門の「門」の字をとって名付けられたものです。園内にあります正門、噴水泉、和田君遺徳碑、豊門会館、西洋館は平成17年に国の登録文化財となっています。

小山町は、平成16年度にこの豊門公園を富士紡績株から購入し、公園を町民に開放することを目的に平成20年、21年度に整備いたしました。そして昨年度から殖産興業時代の偉人達の功績と歴史を感じられる公園にしたいと、今回さらに修景整備をおこなったものです。

「歴史を旅する」をコンセプトに、西洋館の前を「格式あるフランス様式庭園」にし、公園全体には「小山の歴史を巡る回遊路」をつくりました。

また、日比谷平左衛門翁の銅像が太平洋戦争中に供出されたまま姿がなく、台座だけが残っていたのが気になっておりましたので、これを今回復元いたしました。公園の正門には和田豊治翁の胸像を建てまして、歴史文化の薫る公園となりました。

今後は、豊門会館の周りを「創建当時の想いを再生する池泉回遊式庭園」とするだけでなく、豊門会館と西洋館の建物の大規模な修繕に着手することにしております。

豊門会館は常に中を見学できるようにすると共に、お茶会をはじめ、様々な催しや会合、会食にご利用いただけるようにします。また西洋館は1階をレストランとカフェ、2階にはギャラリーとライブラリーを整備しまして、富士紡績株の進出時代から小山町の近代化が進んでいく町の歴史がわかるようなスペースにする予定です。2020年には小山町に東京オリンピッ

クがやってきますので、それまでに間に合わせたいと思っております。

公園内には「和田豊治遺徳碑」がありますが、この碑文には「大正14年12月、静岡県駿東郡小山町民建立」とあり、大正13年に逝去した和田豊治翁が小山町の発展に貢献した功績を称えて、町民により建設されたものです。また、公園をつくる際には樹木や置石は町民有志の寄贈によるものでした。

このような歴史を想いますと、今回の豊門公園修景から始まる豊門会館、西洋館の修繕においても、より多くの皆様からのお力添えが欲しいと願っていたところ、まずは全国の皆様方からのふるさと納税が集まり、(株)リンガーハット様はじめ25社の各法人様、そして町民有志の方々、さらにはベンチへの寄付者の皆様、ブロンズ像の建造には和田薫幸会さま、そして日比谷平左衛門翁の御子孫の皆様方から暖かいご寄付を頂戴し、深く深く感謝申し上げます。\*\*\*

と締めた。

この豊門公園の修景開園式に100名ほどの人が参集した。件の落成式に比べ多いのは、寄付をしてくれた方々をお招きしたからだ。寄付は先の町長の挨拶で紹介された人たちだけではない。西洋館の窓をデザインに採りこんだ特注ベンチに20万円を寄付していただければ「あなたのメッセージ」プレートをつけて設置することとした。企画した者としての責任として小生も一つ置いている。町民そして神戸大教授からへ寄付を頂戴し10脚のモスグリーンの重厚なベンチが並ぶ。

園内にはこれまであったもみじに加え、桂の並木、バラ、季節ごとに咲く花木、西洋館が映えるような植栽がされている。豊門公園に行くと写真を撮っている方の姿をよく見かける、おとなの写生大会も開かれている。

この公園の維持管理を心配する声は多い、ならば一人でもできることをと毎朝ベンチ、説明プレート拭きとゴミ拾いに行くことにしている。

寄付ベンチのプレートに小生は「富士紡初代社長の和田豊治が暮した六合山荘に住んだことが因果か、豊門公園の修景、豊門会館と西洋館の大規模修繕を手掛けることになりました。森村市左衛門、日比谷平左衛門、浜口吉衛門そして和田豊治の魂が宿る公園として、小山町の皆様を末永く見守って欲しいものです」と記した。次は豊門会館と西洋館の大規模修繕が待っている。お楽しみはまだこれからだ。(おわり)

